

Narcotráfico en Venezuela 2024:

Un negocio que lucra al poder y se expande



(写真) Transparencia Venezuela “ベネズエラの麻薬密輸経済に関するレポートを紹介”

ベネズエラの麻薬密輸経済

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

ベネズエラは、麻薬密輸ルートの1つとして知られている。

この麻薬密輸には、マドゥロ政権およびベネズエラ国軍高官を含む組織的な関与が疑われており、度々米国から批判を受けている。

本稿では、非政府系団体「Transparencia Venezuela」が作成したベネズエラの麻薬密輸に関する報告書の一部を紹介したい。

麻薬密輸の経済規模は82.3億ドル？

最初にベネズエラの麻薬密輸の経済規模について確認してみたい。

ベネズエラはコカインの密輸ルートではあるが生産地ではない。基本的にコカインの原料となるコカはコロンビア、ペルー、ボリビアで栽培・加工され、ベネズエラを経由するコカインはコロンビアから流れてくる（[「ウィークリーレポート No.207」](#)）。

「Transparencia Venezuela」の資料「Narcotráfico en Venezuela 2024: Un negocio que lucra al poder y se expande」によると、コロンビアの2023年のコカイン生産量（推定値）は2664トンだという。

このうち約24% (639トン=639,000キロ) がベネズエラ経由で米国などに流れるという。

これにコカインの価格 (推定) 12,810ドル/キロをかけると、ベネズエラを経由するコカインの経済規模は81億8559万ドル (推定) になる。

また、コカインと比べると量は少ないが、ベネズエラはマリファナの密輸ルートでもある。

推定される密輸量は8416キロ。

マリファナの価格は6000ドル/キロ (推定) なので、ベネズエラを経由するマリファナの経済規模は5049.6万ドル (推定) になる。

コカインとマリファナを合わせると合計82億3608.6万ドル。

Transparencia Venezuela は、これがベネズエラを経由する麻薬の経済規模と推測している。

なお、米国の統計当局の公表値によると、2024年の米国によるベネズエラからの原油・石油製品の輸入額は合計60.1億ドルである。

つまり、Transparencia Venezuela の試算によると、ベネズエラの麻薬密輸の経済規模は、米国によるベネズエラからの原油・石油製品輸入額を超えるということになる。

Narcotráfico, Ingresos estimados



Sustancia:
Cocaína
Volumen (Kg):
639.000
Precio estimado (USD/Kg):
12.810
Ingreso estimado:
8.185.590.000



Sustancia:
Marihuana
Volumen (Kg):
8.416
Precio estimado (USD/Kg):
6.000,00
Ingreso estimado:
50.496.000

Fuentes: ONUDD, Insight Crime

Ingreso Total:
8.236.086.000

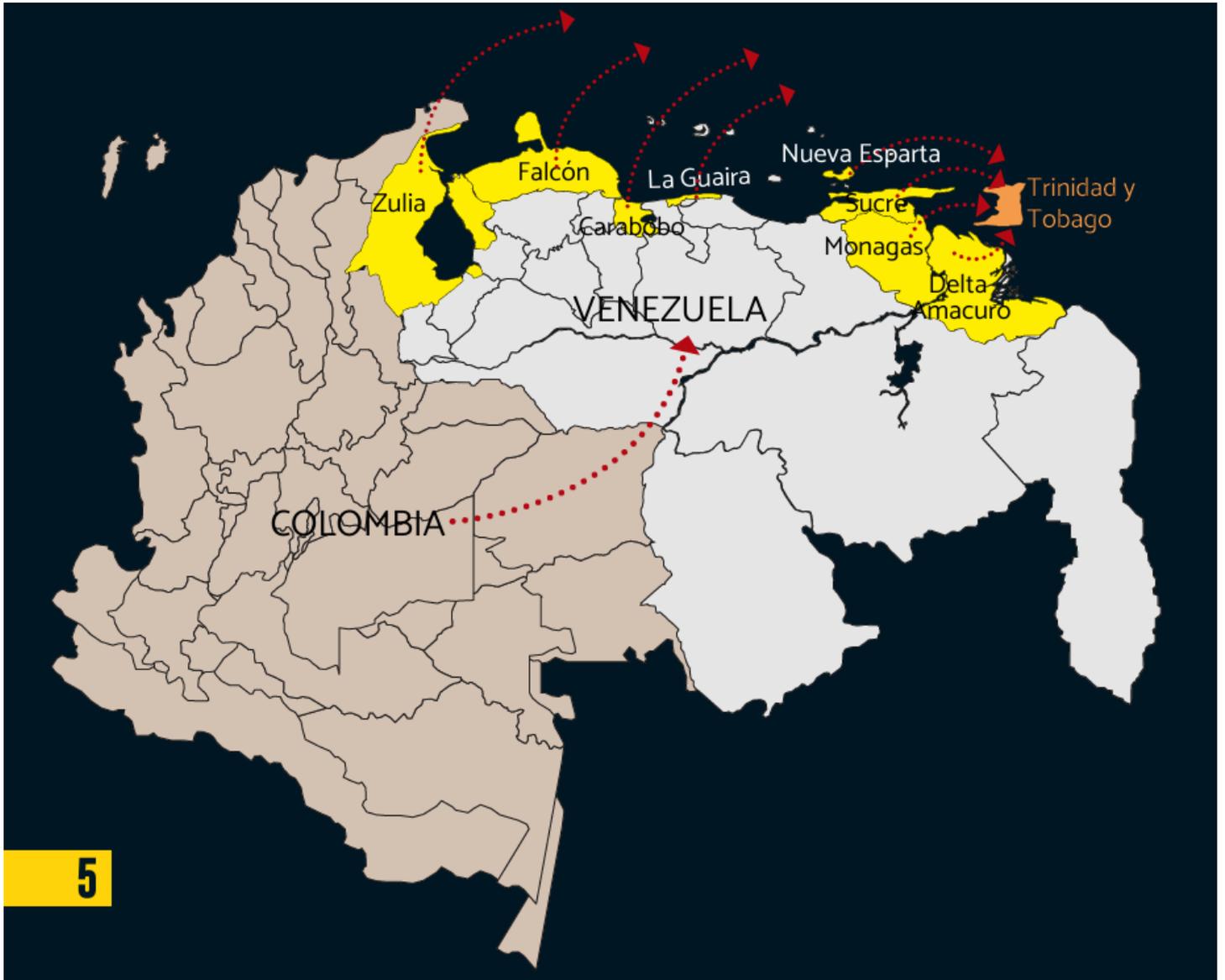
密輸ルートは大きく分けて2ルート

次に密輸ルートについて確認してみたい。

Transparencia Venezuela によると、ベネズエラの麻薬密輸ルートは、コロンビアからベネズエラに流れた後、「西側ルート」と「東側ルート」の2つに分かれる。

「西側ルート」は、スリア州、ファルコン州、カラボボ州、ラグアイラ州からカリブ海、中央アメリカ、欧州に向けて送られる。

「東側ルート」は、ヌエバエスパルタ州、スクレ州、モナガス州、デルタアマクロ州から近隣国のトリニダード・トバゴに送られる (次ページの図参照)。



(写真) "Narcotráfico en Venezuela 2024: Un negocio que lucra al poder y se expande"

麻薬密輸には多くの関係者が関与

麻薬の密輸には、加工・配布・輸送・資金洗浄など様々な役割があり、各過程で関係者が利益を得ており、その受益者は非常に多いとされている。

その中でも、ベネズエラでは特に「Cartel de los Soles (カルテル・デ・ソレス)」と呼ばれるグループが麻薬密売の中枢にいとされている。

Cartel de los Soles は、日本語で言うと「太陽カルテル」である。

ベネズエラ国軍高官がつける階級章が太陽のマークなので、「太陽カルテル」と呼ばれている。

つまり、「ベネズエラの麻薬密輸の元締めは、ベネズエラ国軍高官」という意味合いで太陽カルテルと呼ばれている。

また、ベネズエラ国軍に加えて、3つのグループが麻薬密輸に深く関与していると言われている。

1つ目のグループは「コロンビア革命軍 (FARC)」。

Transparencia Venezuelaによると、FARCはスリア州、アプレ州などコロンビア国境におり、構成員は497人に上るといふ。

2つ目のグループは「国民解放戦線 (ELN)」。
タチラ州、アプレ州を中心にベネズエラに広範囲に構成員が点在しており、その人数は合計944人と推定されている。

3つ目のグループは、トランプ政権が問題視している「Tren de Aragua」。殺人・誘拐・恐喝など犯罪を行うグループではあるが、ベネズエラ国内では麻薬密輸にも関与していると指摘している。

これらのグループが、種子、肥料、化学品などの輸送と偽り、麻薬を輸送している。なお、一部では犯罪に加担しているとの認識がない状態で麻薬を運ばされているケースもある。

輸送の過程で護衛を雇い、取り締まりを行う警察に賄賂を支払い、稼いだ資金を銀行関係者に資金洗浄してもらう必要がある。

また、資金洗浄に協力する企業関係者や法的なアドバイスをを行う弁護士などもおり、軍関係者や犯罪組織以外のグループも麻薬密輸に関与している。

政府・軍高官などが麻薬密輸に深く関与？

麻薬密輸を取り締まる立場にある組織はベネズエラには複数ある。

基本的には内務司法省傘下の「国家麻薬対策監督局 (la Superintendencia Nacional Antidrogas)」
「国家犯罪組織・テロ資金対策事務所 (la Oficina Nacional Contra la Delincuencia Organizada y Financiamiento al Terrorismo)」
「国家警察 (PNB)」 「犯罪科学捜査班 (CICPC)」
などが取り締まりを行う。

他にも「検察庁」「ベネズエラ国軍 (FANB)」なども取り締まりに関与している。

しかし、ここで問題とされているのが、これら取り締まる立場にあるトップが麻薬密売に加担しているのではないかとの懸念である。

米国の「麻薬取締局 (DEA)」および「財務省」は、ディオスダード・カベジョ内務司法相が「太陽カルテル」のトップと主張。カベジョ内務司法相に2500万ドルの懸賞金をかけている。

他、パドリーノ・ロペス国防相についても米国政府は「2014年3月~19年5月にかけて、コカインを米国に輸送する手助けをしていた」との嫌疑をかけており、米国司法省は「ロペス国防相が賄賂を受け取り、麻薬を乗せた飛行機のフライトを見逃した」と指摘している。

他にもタレク・ウィリアム・サアブ検事総長、Danny Ramón Ferre Sandra 国家麻薬対策監督局長、Rubén Darío Santiago Servigna 国家警察総司令官、Douglas Arnoldo Rico González 犯罪科学捜査班長、Domingo Hernández Lárez 国軍戦略オペレーション司令官など主だった高官が米国政府から個人制裁を受けている。

MÁXIMOS RESPONSABLES DE LUCHAR CONTRA EL NARCOTRÁFICO EN VENEZUELA

Nombre	Cargo	Sanciones	Procesos judiciales por narcotráfico
Diosdado Cabello Rondón	Ministro de Relaciones Exteriores, Justicia y Paz	X	X
Vladimir Padrino López	Ministro de Defensa	X	X
Tarek William Saab	Fiscal general	X	
Danny Ramón Ferrer Sandra	Superintendente Nacional Antidrogas	X	
Santiago León Sandoval Bastardo	Jefe de la Oficina Nacional Contra la Delincuencia Organizada y Financiamiento al Terrorismo		
Rubén Darío Santiago Servigna	Comandante general de la Policía Nacional Bolivariana	X	
Douglas Arnoldo Rico González	Director del Cuerpo de Investigaciones Científicas, Penales y Criminalísticas	X	
Domingo Hernández Lárez	Comandante Estratégico Operacional de la FANB	X	

(写真) "Narcotráfico en Venezuela 2024: Un negocio que lucra al poder y se expande"



Fuente: Superintendencia Nacional Antidrogas

なお、国家麻薬対策監督局は、麻薬押収量について、2022年は約47.2トン、23年は約52.1トン、24年は約40トンと発表している。

仮にベネズエラの麻薬密輸量が639トンだとすれば、全体の10%も押収出来ていないことになる。

米国政府の対応の非対称性に疑念

上記の内容を確認する限り、ベネズエラは麻薬密輸大国との印象を強く受けるし、実際にその部分はあるだろう。また、麻薬の密輸にはマドゥロ政権や軍の関係者が関与している可能性は高い。

ただし、この問題を扱う際に疑問を感じるのは、米国政府の対応の非対称性である。

例えば、コロンビアはコカインの栽培国であり、コロンビアでコカインが栽培されなければ、そもそもベネズエラへの密輸ルートは存在しない。

そして、コロンビアはコカインの最大の生産国であると同時に最大の物流拠点でもある。

コロンビアの麻薬に関する経済規模はベネズエラよりもかなり大きいことは確かだろう。

この巨大なコカイン経済が続いている背景にコロンビア政府・コロンビア軍高官は関与していないと考える方が不自然である。

また、ベネズエラから密輸されるコカインがコロンビアで生産されるコカインの24%だということは、残りの76%はエクアドルなどを經由して「太平洋ルート」で流れているという点も注目に値する。

ベネズエラよりもはるかに多い量のコカインが密輸されているということは、エクアドルの麻薬に関する経済規模はベネズエラよりも大きいはずだ。

ベネズエラで軍高官を中心とする「太陽カルテル」が存在するならば、同じ理由からコロンビアやエクアドルでも取り締まる立場にある組織が麻薬の密輸に関与しているのが普通だろう。

しかし、米国政府によるコロンビア、エクアドルへの対応は、ベネズエラとは異なる。

この態度の非対称性が問題である。

麻薬に関する問題で言えば、米国政府はコロンビアとエクアドルに対してベネズエラ以上の熱量をもって両国政府を非難するべきだろう。

米国政府が問題視しているのは、麻薬密輸なのか、それとも麻薬密輸は反米国家であるマドゥロ政権を攻撃するための口実でしかないのか。

米国の正義に疑問を感じるころではある。

以上